



「ろじたん」の使用事例

「ろじたん」の
使用事例

製造革新の激流

IoT時代のモノづくり

国土交通省が7月28日に発
表した調査によると2016年
7%増の約40億1900万個

度宅配便の荷物数は前年度比
ネット通販の荷物増加
により2年連続で過去
最高を更新した。一方
で、宅配前の荷物を仕
分ける倉庫作業の現場
では人手不足が益々深
刻化し、人材確保と業
務効率化が事業者の生
命線に分ける喫緊の課
題となっている。

導入しやすさ、中小に人気

作業時間計測で倉庫作業を可視化

「ろじたん」だ。
アンドロイドスマホアプリとW
EBの連携により各作業にかかる
時間が簡単に計測できるツール。
各スタッフが腰に付けたスマホの
画面上で、一定間隔の通知時に実
施中の作業ボタンをタップするだ
けで、一日の作業履歴や歩数を記
録できる。WEB上に蓄積した
データは集計・分析ツールを用い
てダッシュボード上にグラフや表
として「見える化」して作業の見
直しを検討可能。オプションサー
ビスとして物量や生産性の推移グ
ラフと作業時間分析を連携させ
る機能もあり、過去の実績と比
較検証しやすくなっている。

15年10月のサービス開始から
今年8月中旬までに物流事業
者など累計110拠点での導入
実績がある。千田裕士氏(同社
Advanced Technology Unitメン
バー)は「倉庫業務は実態の把握にコ
ストや手間がかかりすぎていた」
と、千田氏は従来の課題を指摘す
る。

特別システム構築や設定が
「ろじたん」の操作画面。作
業内容を選択するだけで
一定時間ごとに画面の作
業内容をタップするだけ

「倉庫業務は実態の把握にコ
ストや手間がかかりすぎていた」
と、千田氏は従来の課題を指摘す
る。

2年後のサービス展開目標は
常時220拠点。事業者のニー
ズに応え、使い勝手も進化して
いる。昨年12月には位置情報
を検知するビーコンと連動した

「手軽に実態を把握」
「倉庫業務は実態の把握にコ
ストや手間がかかりすぎていた」
と、千田氏は従来の課題を指摘す
る。

特に中小規模の倉庫業務は手
作業が基本でデータを自動収集
しにくい。しかも業務内容は検
品からピッキング、梱包と多岐
にわたる上に作業員の習熟度も
あり、実態を把握するには、作
業時間を手書きと手入力で集計
したり、コンサルが数日間張り
付いて作業内容を調べるしかな
かったのだという。こうした手間
とコストの課題をクリアするべく
開発されたのが「ろじたん」だ

「ろじたん」の操作画面。作
業内容を選択するだけで
一定時間ごとに画面の作
業内容をタップするだけ

「ろじたん」の操作画面。作
業内容を選択するだけで
一定時間ごとに画面の作
業内容をタップするだけ

「ろじたん」によると「手待ちや
準備作業の時間など、これまで
計測できていなかった部分のデー
タが取得できることなどに評価
が高い。ケースにもよるが、人
員配置の最適化で人件費を15
%削減できた事例もある」とい
う。

「ろじたん」によると「手待ちや
準備作業の時間など、これまで
計測できていなかった部分のデー
タが取得できることなどに評価
が高い。ケースにもよるが、人
員配置の最適化で人件費を15
%削減できた事例もある」とい
う。

「ろじたん」によると「手待ちや
準備作業の時間など、これまで
計測できていなかった部分のデー
タが取得できることなどに評価
が高い。ケースにもよるが、人
員配置の最適化で人件費を15
%削減できた事例もある」とい
う。

「ろじたん」によると「手待ちや
準備作業の時間など、これまで
計測できていなかった部分のデー
タが取得できることなどに評価
が高い。ケースにもよるが、人
員配置の最適化で人件費を15
%削減できた事例もある」とい
う。